

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第97回

法政大学の活動報告



網野禎昭
(法政大学デザイン
工学部建築学科教授)

「森林資源の多面的活用」テーマに
アジア3カ国から院生10名を招へい

プログラムの目的

法政大学では、3月6日(月)～3月12日(日)の期間、豊かな森林資源を持つアジアの3ヶ国(台湾、ミャンマー、ヴェトナム)から、建築を学ぶ学生および大学院生10名を招き、さくらサイエンスプランによる交流プログラムを実施しました。テーマを「森林資源の多面的活用による生活文化の形成」と定め、造林・伐採からはじまり、木材が様々な用途に活用されてゆくプロセスを、講義と実地学習を通して学ぶ内容としました。日本は世界有数の森林国であり、木材に依拠した独自の生活文化を発展させてきました。国内の森林資源活用は、戦後工業化の過程で一旦は停滞したものの、近年、循環型社会の実現を目指す中で、再び重要視されています。日本国内の諸事例の学習を通して、森林資源活用の多様性を学ぶことにより、木材に対する理解を深めると同時に、循環型社会の形成に対する視点を養うプログラムです。

プログラムの概要

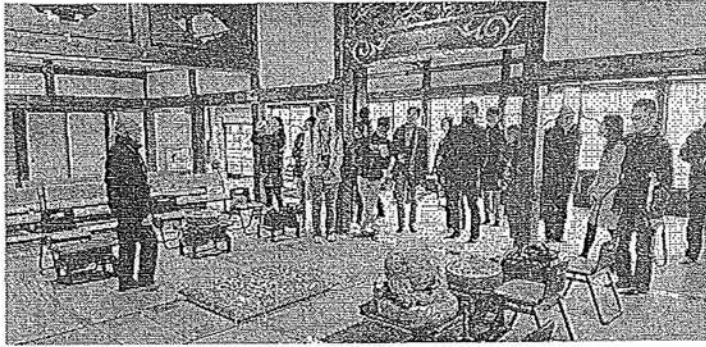
開講日のウエルカムパーティーに続き、2日目のStroll through an old Tokyo neighborhoodでは、根津神社周辺の散策を通し、東京という大都市においても木材がいかになじみ深い建材であったかを体感しました。午後は林野庁から講師を迎えて、日本の林産業の現状と課題についての講義を行い、以後の実地学習の下地としました。

3～6日目の静岡県で行われた実地学習では、静岡県庁の協力をいただき、木材の生産から活用までの様々なステージを以下の順で学習しました。①Wood as a sustainable material・天竜の山深くに入り、杉の伐採や丸太を無駄なく挽く製材方法について指導を

プログラム	
1日目	到着、ウエルカムパーティー
2日目	根津神社と東京散策 林野庁・法政大学の講義受講
3日目	静岡県へ移動 林業と製材現場見学(株式会社フジイチ)
4日目	河合楽器製作所竜洋工場見学 建設・改修工事・解体現場見学(青葉ひよこ保育園、庵原山一乗寺)
5日目	木造建築見学(駿府教会、駿府城公園坤櫓、草薙体育館、静岡県舞台芸術センター橋円堂)
6日目	木造住宅向け木材加工工場見学(ボラテック富士株式会社)
7日目	プログラムの振り返り 参加者のプレゼンテーション 成田国際空港にてお別れ

受けました。途上林地から湧き出す清流の清らかさに感動し、森林の産業的価値だけでなく環境的価値についても学ぶことができました。②Wood so Eids good 木質素材を活用した伝統産業の一例としてのピアノの製造工程を訪ね、音色が木材の個性を上手に活用し

た結果であることを知り、音のエキスパートたちがより良い音を求めて木材の確保と加工に腐心する様子に心打たれました。③Durable enough・伝統的な大工技術の実演や、復元建造物を見学した他、文化財指定を受けた庵原山一乗寺では、小屋裏にも上らせていた伝統的な屋根架構を見学する貴重な機会を得ました。④Wood builds the future・天竜杉による大型建築である草薙体育館を始めとした木造公共建築など、木を活かした現代建築を数多く見学し、あわせてその設計の意図について設計依頼者や設計者から直接話を聞くことで、木造建築の可能性や課題について理解を深めることができました。⑤Mass production meets the diversity・コンピュータ制御による自動加工ラインにより月産500棟分の住宅用骨組みを加工する工場を訪ね、高齢化・人手不足や顧客ニーズ



解体を始めた木造の寺院にて

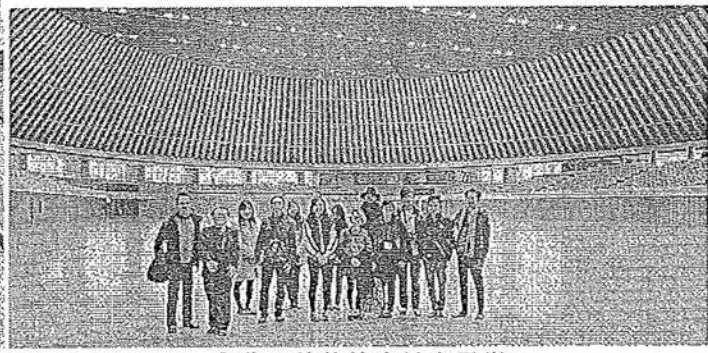


天竜杉の植林・伐採現場にて

最後になりましたが、JSTをはじめ、今回のプログラムの運営・実施にご協力いただいた関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。



東京の下町を散策



木造の草薙体育館を見学

ミャンマー、ヴェトナムからの参加学生のうち数名が本学への留学を希望しております。従事者不足に苦慮する日本国内の林産業への刺激として、また、地球の肺とされる亜熱帯・熱帯の森林の造林・活用のためにも、彼らの活躍に期待するところです。

の多様化に対応する大量生産技術の最先端について学びました。プログラムの成果
最終日には、参加者全員がプログラムを通しての学びを振り返り、母国の森林資源の状況、伝統的な木材活用や、未来に向けての各自のアイデアについてプレゼンテーションを行い、各国での循環型社会形成に対する可能性について議論する時間を持ちました。今回のプログラムの内容が、単一な成功例の学習に限定されず、伝統性対現代的性、一次産業対二次産業、地域経済対グローバルゼーション

など、日本の森林資源活用が様々な対立的課題を内包しつつ漸進している状況を学習できたことが、多様な議論の喚起につながったものと考えています。
今後の展望
参加学生の出身国は、もともと豊かな森林資源に根差した固有な木材活用文化を展開していましたが、近年、急速な工業化に舵を切ったことで、森林破壊や伝統的産業の喪失が問題とされています。参加者からは、建築教育の中でも木材他、自然資源の維持・活用に